第3章 高等学校でのキャリア教育の授業開発

1 各教科の目標と教科活動におけるキャリア教育の取組み

(1) 国語

① 教科の目標

・国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・国語科では、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること を重視している。とりわけ高校では、従前、社会人として生きるために必要とされる国語の能力 の基礎を身に付けることを大切にしてきた。
- ・国語科の指導は、生徒がキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育成するための基盤 を身に付けさせることでもある。

「基礎的・汎用的能力」の育成に関連する「国語総合」の指導事項

領域/能力	人間関係形成 · 社会形成能力	自己理解 · 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
A 話すこと ・聞くこと	・ が けい かい	・話したりにいたりには、 おしたりのでは、 はいしたのでは、 はいしたのでは、 はいしたのでは、 はいに、 はいに、 はいに、 はいに、 はいに、 はいに、 はいにする。 ないにする。 ないにする。 ないにする。 ないにする。 はいにする。 ないにする。 ないにする。 ないにする。 ないにする。 ないにする。 ないにないない。 はいにないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	・ 話題にかける ではない はい はい は は かっかい は がっかい は がっかい がっかい がっかい がっかい がっかい がっかい がっかい がっかい	・ 話題について様々ではな角度から検討ものの考えをするの明確にから、根論理のはできるなど。(再掲)
B 書くこと	・ 課題を解決したり 考えを解決しりする 考えをは、相手の立場 た考のに、を が考し、の で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	・ 優れた表現に接した表現を考に終れた表現を考にを入り、で書い己評価を行いて評価を行の表も感じて、ての見方を豊かである。	・ 対象を的確に説明 したり描写したりす るなど,適切な表現 の仕方を考えて書く こと。	・ 論理の構成や展開 を工夫し、論拠に基 づいて自分の考えを 文章にまとめるこ と。
C 読むこと	・ 文章に描かれた人ど 文章に描かれたという。 文章情景、即している。 ・ 文章のは大のでは、 ・ 文確かめ方に、 を確かしたり、 を確のしたり、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	・ 幅広く本や文章を 読み,情報を得て用 いたり,ものの見方, 感じ方,考え方を豊 かにしたりすること。	・ 文章の内容の内容の内容の内容の内容の内容の内容の内容の内容の内容の内部には、文章の内内容を記していり、対してののの必要ができる。 たりすること、 たりすること、 たりすること、 したりすること、	・ 幅広く本や文章を 読み,情報を得て用 いたり,ものの見方, 感じ方,考え方を豊 かにしたりすること。(再掲)

(2)地理歴史

① 教科の目標

・我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・地理や歴史の知識・概念・技能を習得することで、社会的事象を捉えることができる。自らが国家・社会の形成者であるという視点に立って思考・判断することは、自己のキャリアの形成につながる。
- ・社会的事象を多面的・多角的に捉える力、直面する課題を探究するための資料の収集と分析・考察、その過程や結果を表現する力も、キャリア育成を支える要素となる。
- ・主体的に社会に参画する資質や能力を育成することが各教科において重視される。

【高等学校における地理歴史科の指導内容とキャリア教育ー「基礎的・汎用的能力」を視点として】

分野/能力	人間関係形成 · 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
地理	・ 課題追究的な学習した意見を相手に伝える。・ 他者のみ様な考疑的である。・ 他のの多様な考疑問を受ける。とを受ける。とと、質問ない。	え方を踏まえ、諸事 象の空間的な規則性 や傾向性を捉える。	を目的に合わせて選択・処理し、地域性を読み取り、比較し、関連付け、変容を捉える。・ 現代世界が抱える地球環境問題などの諸課題を、地域性を	を地域の枠組みで捉え、環境条件や他地域との結び付き、人間の営みに着目し自己の役割を追究する。・ 地理的事象の変容を捉え、地域の課題
	・ 博物館・資料館などの調査・見学活動を通し、地域の人々	諸地域世界の形成、	踏まえて考察する。 	や将来像について考える。・ 歴史的事象の背景
歴	と交流する。	交流と再編,結合と 交変界のは一体化の 過程を文化な経済・ 社会でで捉える。 ・ 日本列島内の地域の 的差異を、地域の特	在り方や宗教・民族 を巡る紛争などの 諸課題を,歴史的背 景を踏まえて考察す る。 ・ 年表・地図の他に	を考察し、世界との 関連の中で日本及び その属する地域の将 来像を考え、自己の 役割を追究する。 ・ 歴史上の人物の生
史		的差異を, 地域の特色や相互の関係性などの理解を通し, 地域社会と国家の歴史的な関わりから捉える。	も又献員村や図隊員 料,映像資料などを 活用し,様々な視点 から考察する。	さがに、時代 背景などを踏まえて 考察し、自己の生き 方や役割、将来設計 を考える。

(3)公民

① 教科の目標

・広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間と しての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として 必要な公民としての資質を養う。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・社会的・職業的に自立するためには、現代の社会について理解し、それに基づいて自らの生き方 や社会の在り方について考察することが欠かせないことから、公民科の学習は、高校のキャリア 教育において、重要な役割を担っている。
- ・自らの労働や生活につながるものとして経済社会について理解を深めさせることや主権者として の政治参加の重要性や裁判員としての司法参加の意義を考えさせ、社会の有意な形成者としての 役割と責任を自覚させることは、この社会において「生きる力」につながる。
- ・具体的な雇用や労働問題、社会保障などの知識は、一人一人のキャリアを支える重要な基礎となる。卒業後の社会では、非正規雇用の増加など、労働者の職業生活を取り巻く環境が大きく変化していることから、労働保護立法や社会保障制度などを、一人一人の将来の生活に直接関わる生きたものとして伝えることが重要である。
- ・生徒自身が望む働き方やワーク・ライフ・バランスを考えたり、社会全体にとつてどのような雇用や社会保障の在り方が望ましいのかについて話し合ったりすることで、生徒のキャリア発達を 促すことができる。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する公民科の指導内容の例

人間関係形成・	自己理解・		キャリア
社会形成能力	自己管理能力	課題対応能力	プランニング能力
・ 村本のかって、調 擬を、せ 験想他つる。にした。 をを者い では かいこと は かいしん かい がった できなが でいます かい できが できが できが でいる がい できが できが でいる がい できが でいる がい できが でいる がい	勢とその背景について学が状め をその背景についてのいるのでですが、 をととなっていて、会解でいるですができませる。 ・ 対しているでは、 ・ 対しているですが、 ・ 対しているですが、 ・ 対しているですが、 ・ 対しているですが、 ・ は機関現できるできないできないできる。 ・ がよりできる。 ・ いけで、 ・ いけて、 ・ いけて、 ・ いけでも、 ・ いけて、 ・ いけて、 ・ いけて、	取り、分析する力を身に付けさせる。 ・ 社会的事象に関する情報の検索の仕方を学び、複数の情報源からの情報を比較校討するかど、メディアリテラシーの能力を身に付けさせる。	界になった。 保証のでは、 をでいれまな、 をでは、 をでは、 をでいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれまな、 でいれる。 で

(4)数学

① 教科の日標

・数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、事象を数学的に考察し処理する能力を高め、数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、 それらを積極的に活用する態度を育てる。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

②キャリア教育の取組み

- ・自ら課題を見出し、解決するための構想を立て、考察・処理し、その過程を振り返って得られた 結果の意義を考えたり、それを発展させたりすることは、自己理解・自己管理能力の育成につな がる。
- ・他者に分かりやすく論理的に伝え、議論することは、言語活動によるコミュニケーション能力や 自己表現力の育成につながり、ひいては人間関係形成力・社会形成能力につながっていく。

「基礎的・汎用能力」の育成に特に関連する数学科の指導内容の例

人間関係形成・	自己理解・	課題対応能力	キャリア
社会形成能力	自己管理能力	日本 たさんり バン・日とノリ	プランニング能力
て効率よくデータを入力 したり処理したりすること, お互いに意見を出し 合ったりすることは, コ	問題解決の形 おりい で行われい で行われい かって で行い かられい を で おい 必要な と で を する感 や 達底 を らしまれる は で も に で も に で は で は で は で は で は で は で は で は で は で	このようにして, それぞれの課題に対して数学的	を体系付けるために、仮定・ないでは、 仮定・ないでは、 では、 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。

(5)理科

① 教科の目標

・自然に対する関心や探究心を高め、観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育て るとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

(出典: 文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

・実験や観察などを通して、探究する能力や態度を身に付けることが求められている。新しい知識、情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す現代社会では、新しい知識や情報の真偽を科学的に判断することや、筋道を立てて理解するのが必要な事態がしばしば起こる。生涯にわたって、主体的・創造的に生きていく上で、探究する能力や態度を身に付けることは、必要不可欠である。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する理科の指導内容の例

人間関係形成 ·	自己理解・	課題対応能力	キャリア
社会形成能力	自己管理能力		プランニング能力
・ 他者と協力・協働して、 グループで観察・実験を 行う。 ・ 実験レポート・観察記 録の作成や発表により、 互いの考えを理解し合 う。	貢献できることを理解	・ 課題に対して、探究的に対して、探究的に対し、科学的に分析し、真理を見いだそうする。・ 情報を収集・整理して課題解決に活用する働・グループにの協する。業がスムーズに進の段取りを考え、適切に行動する。	・理科で学んだことや科学的な考え方が様々な職業や社会生活解し、の生き方に生かす。 ・科学技術関わりに ・科学技術関わりに ・科学技の関わりにする ・記識を深め、 えようとする。

(資料出典:文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」2011年11月)

(6)保健体育

① 教科の目標

・心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、 生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実 践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

(出典: 文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・保健体育は、現在及び将来の生活を健康で活力に満ちた明るく豊かなものにすることを究極の日標としており、キャリア教育と密接に関連する指導内容がある。
- ・保健体育を通して育成する健康の保持増進のための実践力や体力は、一人一人のキャリア形成の 基盤としても極めて重要である。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する保健体育科の指導内容の例

科目/	人間関係形成・	自己理解・	課題対応能力	キャリア
能力	社会形成能力	自己管理能力	**************************************	プランニング能力
科目体育	・ はる、を持ちになって際配、はる、を技らです。 ない と間がの かっす たい と間が かっす といい といい といい といい といい といい といい といい といい とい	に注意を払いながら 運動を行う。 けがを来然に防ぐために必要に応じて、 危ら回避行動をとる。	踏まえて、目標に応 じた自己やする。 課題を設解決の過程を 課題類で、自己やする。 はの課題を見直す。	・ 様々な運動にはいるのでは、 ・ 様々な活し、 ・ でまで継継選ぶ。 ・ 運動の動をはいませい。 ・ 運動した関わり方を 見付ける。
科目保健	・ 公司 を は かっと は かっと は な に かっき で がっか と がった は かっき に がっき と がった は かっき に がっき に がっき に がっき に がっき は かっき に がっき は かっき は は かっき は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	・ 健康を保持、増進人では、 を保は、関をに、 は、関をに、 は、関をに、 は、関をので、 は、関をので、 は、関をので、 は、関をので、 は、で、 は、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で	・生涯の各段間を いては、 対けは、 対の自らしたり は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	・ 社会生活におけるは、 健康の保持増進におけるは、 環境や食わられるでは、 があると はくく、 はいるでは、 はいるでは はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はいる はい

(7)芸術

① 教科の目標

・芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、 芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・作品を形作っている諸要素を知覚することや、そのよさを感じ取り、思考・判断し表現する力の 育成を重視することで、各種能力の向上に結び付けることが重要である。
- ・価値観の多様化が進む現代社会においては、様々な他者を認めつつ、他者と協働していく力が必要になる。その中で、芸術の授業において解釈したことや自分なりに判断したことを基に批評し合うなど、諸活動を通して異なる価値観を共有することが大切である。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する芸術科の指導内容の例

分野/ 能力	人間関係形成 · 社会形成能力	自己理解· 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
音楽	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ 曲想を楽曲の書います。 と関わると関わるとなる。 実的ないないのでである。 ・ 変しまり、 たりのでは、 ののでは、 ののでは		・ 我が国や郷土の伝統 祭業 アジア発 の諸民族の様々な音楽の様々な音楽の特徴を理解するとともに、多様性を
美術	・ 感じ取ったことや 考えたこれをどについて、根拠を明らえを いて、根値の考えを はべたり、生徒同士 で批評したりする。	や用具の特性を生か すなど、表現を工夫 する。	・ 表現形式の特性を生かし、形、形体、色彩、構成などをエ夫して創造的な表現の構想を練る。	・ 日本の美術の歴史 や表現の特質, が表現の特質の美術の歴史 及び諸かいて理解を めるとともに, 多質性を感じ取り, 鑑賞 する。

(8)外国語

① 教科の日標

・外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとす る態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実 践的コミュニケーション能力を養う。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・教育活動の中で、生徒たちが基礎的な知識・技能を習得し、これらを活用して、自ら課題を解決するために思考し、判断し、表現することは、すべて言語を通して行われる。その意味において、言語に関する技能そのものの習得を目的とする外国語科は、生徒たちのキャリア発達に不可欠な能力や態度を育成する重要な役割を担っている教科である。
- ・特に、人間関係・社会形成能力の重要な要素であるコミュニケーション能力の育成において、 外国語科における学習が果たす役割は大きい。
- ・外国語の学習は、言語とその文化的な背景を学ぶことにより、自分を取り巻く社会や世界に目を向け、他者に対して積極的に関心を持ち交流していく意欲や能力を育むとともに、自分が住む社会や世界で自分自身をより良く生かしていくことができるよう、必要な情報や考え等を的確に理解したり適切に伝えたりする能力を育成するものである。これらのことは、キャリア教育が目指す社会的・職業的自立の基盤となる能力・態度であることはいうまでもない。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する外国語科の言語活動の例

能力学年	人間関係形成・	自己理解・	課題対応能力	キャリア
HE/17-4-	社会形成能力	自己管理能力	日本に というしい 日と ノブ	プランニング能力
入学	「読むこと」	「話すこと」	「聞くこと」	「書くこと」
	・読んで理解した内		・事物に関する紹介	
第	容を聞き手に伝わる	に表現しようとする		
A5	ように,その反応を 確かめながら音読す	ことが, 自分の考え を整理したり深めた	│ て, 情報と考え, 事 │ 実と意見などを区別	
学	る。	りすることに役立つ	大と思えなどを区別 し整理しながら概要	
	- 0	ということに気付	や要点を捉える。	変えたりするなどし
年		<∘		て,読み手にわかり
				やすく表現する。
第	「話すこと」	「読むこと」	「書くこと」	「聞くこと」
=		・ 何のために読むの		
学	ついて, ペアやグ			
	ループで話し合うな どして結論を導いた	, , , - , -	の一貫性,段落のつ ながりなどに注意す	
年	り、論理的な話合い	る。	るとともに、誰を対	
	を通じて、合意でき	•	象にして書くのか、	,
第	ることやできないこ		何のために書くのか	< ∘
三	とについて共通の認		などの書く目的を明	
学	識を得る。		確に設定する。	
年				
卒業	上記の各活動)をさらに発展させ,社会	会生活において活用できる	るようにする。

(9)家庭

① 教科の目標

・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

・家庭科は、人の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生涯発達の視点に立ち自立した 社会の一員として、生きる力を身に付けていくことを重視していることから、家庭科でねらう力 とキャリア教育で付けたい力とは密接に関連している。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する家庭科の指導内容の例

分野/能力	人間関係形成 · 社会形成能力	自己理解 · 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
共通教科 「家庭」 『家庭基礎』 『家庭総合』 『生活デザイン』 の共通分野	・ の社理 解生社 きり、会的意	費者問題や消費者の 権利と責任を理解は 生涯を見通して考える。 ・ ライフステージで の衣食に理解し、持続 学的にな社会を目指し	と学校家庭クラブの 家庭名 大いで設定活所 を考え、して で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	目指したライフマンタ イルを確立してるよう いに行動できるよう にする。 ・ 生活設計を立て、生 涯を見通した主体的

(10)情報

① 教科の目標

・情報及び情報技術を活用するための知識と技能の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考 え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報 化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・高度に進展した情報社会においては、人間が生きていくための必須条件として、衣食住に情報が 加わっているといっても過言ではない。
- ・多様化する情報源、短時間に大量に創造され、流通している情報、そして誰もが情報の発信者に なれる時代を適切に生き抜くために必要な情報活用能力は、社会人として、そして職業人として 欠かすことができない。
- ・技術革新に伴う新たな価値観、マナー、モラルを身に付ける情報モラルの教育も、人間関係形成・ 社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力などを育成するキャリア教育の一環と位 置付けられる。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する情報の指導内容の例

5) D /AK-L	人間関係形成・	自己理解・	-m 85 41 (* 48 45 4	キャリア
科目/能力	社会形成能力	自己管理能力	課題対応能力	プランニング能力
社会と情報	・シをでに、微ヨり トまュ法もびきるとなってに、微ヨり トまュ法もできたけもやシわ ツ酸ミ方と及べる 受護さ信コの理情ー、ケ習、信頃でよりをできれる。 マー・カー かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい かっぱい	・ 多の情報では、 ・ の情報では、 ・ の情報では、 ・ のに、 ・ のに、 ・ のに、 ・ ののは、 ・ ののは、 ・ とめのは、 ・ とめのは、 ・ とめのは、 ・ とめのは、 ・ とめのは、 ・ とののは、 ・ とのいる。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	・ 情報機器や情報通信ネットでは 情報がリークないでは を適解では であるでは である。 情報を では である。	・ 付張 を ・ 付張 を ・ 付表する社理 ・ 大変機器、 ・ 大変機器、 ・ 大変機器、 ・ 大変機器、 ・ 大変機器、 ・ はる。 ・ はる。 ・ はると ・ と ・ はると ・ と ・ にきまり ・ とと ・ とと ・ にきまり ・ とと ・ にきまり ・ とと ・ にきまり ・ とと ・ と ・
情報の科学	・ 社会の情報化が人間に乗たす役割と残ます役割と響に可報社会に報社会に報社会に報社会を構築をするといるの役割を考えさせる	・情報社会の安全と それを支える情報を それを支える情報を 術の活現社会の安に 性を開始された 性性を が考えさせる。	・問題の発解し、 ・問題の発解問になる ・問題のがせ状方との。 ・問題のがせ状方との。 ・問題のがせ状方との。 ・では、 ・では	・情報システムで、サーマのでは、サーマの流と関する。と関すると、の性がは、サーマのでは、サーマでは、サー

(11)産業社会と人間

① 科目の目標・内容等を決定する際の指針

- ・産業社会における自己の在り方生き方について考えさせ、社会に積極的に寄与し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度を養うとともに、生徒の主体的な各教科・科目の選択に資するよう、就業体験等の体験的な学習や調査・研究などを通して、次のような事項について指導することに配慮するものとする。
 - ア 社会生活や職業生活に必要な基本的な能力や態度及び望ましい勤労観、職業観の育成
 - イ 我が国の産業の発展とそれがもたらした社会の変化についての考察
 - ウ 自己の将来の生き方や進路についての考察及び各教科・科目の履修計画の作成

(出典: 文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・「産業社会と人間」は、すべての学校において、学校設定教科に関する科日として設けることができ、学校の実態等に応じて目標、内容、単位数などをさだめることができる(総合学科では、全ての生徒が原則として入学初年次に履修する)。
- ・「産業社会と人間」の学習内容は、知識として学ぶことと体験を通して学ぶこと、学んだことと 自分との関わりを深く考察することなどから構成されているため、各教科に属する科日、総合的 な学習の時間及び特別活動などとの関連を深めて学習することができる。
- ・「産業社会と人間」の指導は、ホームルーム担任を中心とした複数の教員によるティームティー チングで行われることが多く、学習内容によっては、専門的な知識を有する外部人材等を講師と して活用している場面が見られる。このため、学習を通して多様な他者と関わる中で、自分の個 性や興味・関心、職業理解や職業適性、人間としての在り方生き方、将来の進路などについて多 面的に考察し、自分と社会とのつながりを認識することができる。
- ・「産業社会と人間」は、生徒のキャリア発達を促進する実践的な活動を多く包含していることから、職業的(進路)発達の段階が、「現実的探究・試行と社会的移行の準備の時期」とされる高等学校において、たいへん意義のある学習であり、正に、「授業としてのキャリア教育」を展開することができる。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する「産業社会と人間」の指導内容の例

人間関係形成・ 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
・ 自分に をります をります をります とし、とのに分とのに分とのに分し、とうででは、一分のとなって、のでは、一分のことを、は、一分のことを、は、一分のことを、は、一分のことを、は、ののことを、は、ののことを、は、ののことを、は、ののことを、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	進路適性検査など)を 選問して、など)を 観して、よりを を表する。また、 年比較により。自分の成 長を認識する。に捉え将 来に向る。 ・ 「職業人インタビュー」	おいて調査対象者とコ査対象の日程や内容等を調整する。・ 課題解決のための道筋を立て、得て課題解決を協力を関図る。・ 職業調査等を通じて得	成し、自分の無味・関心や将動をなった。 ・ 様々なとこの情では多いでは、 ・ 様々なと、 ・ 様々ないででは、 ・ 様々ないででは、 ・ 様々ないででは、 ・ 様々ないでは、 ・ 様々ないでは、 ・ 様々ないないでは、 ・ 様をいいでは、 ・ できないでは、 ・ できないできないでは、 ・ できないできないでは、 ・ できないでは、 ・ できないできないでは、 ・ できないでは、 ・ できないではないでは、 ・ できないでは、 ・ できないでは、 ・ できないではないでは、 ・ できないでは、 ・ できないでは、 ・ できないでは、 ・ できないではないではないではないではないではないではないではないではないではないでは

(12)総合的な学習の時間

① 教科の目標

・横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

(出典: 文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・自己の在り方生き方を追究する高校の総合的な学習の時間は、高校における学習活動の中で最も キャリア教育の根幹に関わっている。
- ・総合的な学習の時間を通したキャリア教育の実践は、単なる職業体験や進学指導ではなく、個人 としての在り方生き方や現代社会の諸課題に関わる社会の一員としての在り方生き方などにつ いて考えることが大切である。

「基礎的・汎用的能力」の育成に関連する 総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度の例

活動/能力	人間関係形成 · 社会形成能力	自己理解・ 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
学習方法に 関すること	・ 互いに意見を出し合い、見通しを確かめ合い、他者の意見を受け入れながら課題を探究する。	・ 複雑な問題状況を 踏まえ適切な課題を 設定する。	・ 目的に応じて情報 を収集し整理・分析, 帰納的・演繹的に考 察して, 論理的に表 現する。	仮説に基づいて計画を立案する。学習の進め方を内省し、現在及び将来の生活に生かそうとする。
自分自身に関すること	・ 自らの行為について当事者意識と責任をもって意思決定する。	自らの生活の在り 方を見直し、改善に 向けて日常的に実践 する。学ぶ意味や価値を 考える。	・ 目標を明確にし、 課題の解決に向けて 計画的に着実に行動 する。	
他者や 社会との 関わりに 関すること	 異なる意見や他者 の考えを受け入れ、 尊重し理解しようと する。 人間や国家、社会 の在るべき姿につい て考える。 	・ 課題の解決に向け て多様な社会活動に 当事者意識をもって 参画する。	 発表・討論の仕方 やコミュニケーションの取り方を身に付ける。 互いを認め合い、協同して課題を解決する。 	生きる一員として, 何をすべきか, どの ようにすべきかを考

※『高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』第6章第3節より一部引用

(13)特別活動

① 教科の目標

・望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一貝としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。

(出典:文部科学省「高等学校学習指導要領」2009年3月)

② キャリア教育の取組み

- ・特別活動は、キャリア教育の中核的な実践の場である。
- ・ホームルーム活動における学業と進路は、生徒が主体的に取り組むキャリア教育の実践の場として重要な役割を果たす。
- ・ホームルーム活動のほかの内容もキャリア教育に深く関連し、生徒会活動や学校行事もキャリア教育として重要な内容を多く包含している。

「基礎的・汎用的能力」の育成に特に関連する特別活動の指導内容の例

活動/能力	人間関係形成 · 社会形成能力	自己理解 · 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
ホーム ルーム活動	 ホームルーム内の 組織動 男女相互の理解と協力ミュニケーション能力のでと人間関係の確立 	・ 青年期の悩みや課題とその解決・ 社会生活における役割の自覚と自己責任・ 心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立	・ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決・学校における多様な異団の生活の向上・進路適性の理解と進路情報の活用	・ ボランティア活動の意義の理解と働います。 との意義の理解を働います。 主体のと学校 図書館の利用 ・ 主体のと呼ば路の選択決定との解決定と、選択決定と、
生徒会活動	・ 学校生活における 規律とよき校風の確立のための活動 ・ 望ましための活動・ 望まりるための活動・ 異年齢集団による 交流	生徒の教養や情操の向上のための活動 学校行事への協力	・ 身近な問題の解決 を図るための活動 ・ 生徒の諸活動につ いての連絡調整	環境の保全や美化のための活動生徒会の計画や運営ボランティア活動などの社会参画
学校行事	・ 共に 助け合って 生 は は で は で 体 得 が い に お け る 集 が に お け る 集 が を 通 し び 生 値 間 が を し な 生 値 間 が な か に 値 れ の か に 値 れ の か に を は ト 切 ら の 経験	・安全な行動や規律 ある集団行動の体得 ・ ・ ・ ・ ・ ・ 生涯にわたり、文 化や芸術に親しむの めの豊かな情操の涵 養	・ 集団のきまりや社 会生活上のルール, 公衆道徳などの体験 ・ 前年度の計画の見 直しと課題解決のた めの立案	・ 勤労の尊さや創造 するのでの事がの体 得 ・ 就業体験などの職 業観の形成や進路の 選択決験・ ボランティアなど の社会を ・ が会験

2 ホームルーム活動におけるキャリア教育の実践例

- ・テーマ:自分を知る(職業に関する自分の興味・関心を知り、その職業を見据えた進路決定ができるようになる)
- ・内容:職業レディネス・テスト(VRTテスト)の実施と結果分析、生徒へのフィードバックの方法

(1) 職業レディネス・テストの概要

- ・基礎的志向性(対情報、対人、対物)と職業志向性(6つの職業領域に対する興味の程度と自信度)を測ることにより、生徒の職業に対する準備度(レディネス)を把握し、生徒が職業に対する自分のイメージをチェックしたり、進路選択への動機付けを促すことができる。
- ・興味と自信との関係、日常の興味・関心を客観的に図式化し、総合的に解釈することで、進路を探索 する方向性をとらえることができる。
- ・回答者が自分のペースで実施する紙筆検査であり、若年者に対して、自己理解を深めさせ、職業選択 に対する考え方を学習させる教材である。
- ・対象者は、中学生・高校生・専門学校生・短大生・大学生・職業訓練校生・職業相談機関等
- ・所要時間は、実施が40~45分、採点も含めると60分程度。

(参考:雇用問題研究会「職業レディネス・テスト[第3版]」を基に作成)

(2) テストの構成

・「職業興味」を測定するA検査、「基礎的志向性」を測定するB検査、「職務遂行の自信度」を 測定するC検査からなる。





(出典:一般社団法人雇用問題研究会HP)

(3) A 検査の測定内容

- ・A検査は、職業・仕事の内容を記述した54項目の質問からなり、各質問に対して、「やりたい」、「どちらともいえない」、「やりたくない」の3段階で答える。生徒の興味が6つの職業領域において、どういった傾向を示しているかを測定する。
 - 現実的職業領域 〔Realistic Scale〕

機械や物体を対象とする具体的で実際的な仕事や活動の領域

- 研究的職業領域 (Investigative Scale)
 研究や調査のような研究的、探索的な仕事や活動の領域
- 芸術的職業領域 (Artistic Scale)
 音楽、美術、文学等を対象とするような仕事や活動の領域
- 社会的職業領域 (Social Scale)
 人と接したり、人に奉仕したりする仕事や活動の領域
- 企業的職業領域 (Enterprising Scale)
 企画・立案したり、組織の運営や経営等の仕事や活動の領域
- 慣習的職業領域 (Conventional Scale) 定まった方式や規則、習慣を重視したり、それに従って行うような仕事や活動の領域

(出典:一般社団法人雇用問題研究会HP)

(4)B検査の測定内容

- ・日常の生活行動について記述した64項目からなり、各質問に対して、「あてはまる」、「あてはまらない」で答える。生徒の基礎的志向性が職業への興味・関心の基礎となる、「対情報」、「対人」、「対物」の3つの志向性において、どういった傾向があるのかを測定する。
 - 対情報関係志向 (Data Orientation) 各種の知識、情報、概念などを取り扱うことに対して、個人の諸特性が方向づけられていることを示す。
 - 対人関係志向 (People Orientation) 主として人に直接かかわっていくような活動に対して、個人の諸特性が方向づけられていることを示す。
 - 対物関係志向 (Thing Orientation) 直接、機械や道具、装置などのいわゆるモノを取り扱うことに対して、個人の諸特性が方向づけられていることを示す。

(出典:一般社団法人雇用問題研究会HP)

(5) C検査の測定内容

・A検査と同一の54項目の質問で構成されており、各質問に対して、「自信がある」、「どちらともいえない」、「自信がない」の3段階で答える。生徒の職務遂行の自信度を、A検査と同じ6つの職業領域において、どういった傾向を示しているのかを測定する。

(6) 結果の解釈

① 得点の意味

- ・パーセンタイル順位:個人の尺度ごとの粗点が、基準集団の中で、どのあたりに位置づけられるかを明らかにすることによって、個人の特徴を表示しようとするもの。
- ・ある個人のパーセンタイル順位が70であることは、基準集団を構成している人の70%は、その個人の得点より低い方に分布していることを示す(換算表は中学生・高校生別、男女別になっている)。

② 結果解釈の一般的な留意点

- ・得点は、測定上の誤差も考慮して、おおむね「強い」「普通」「弱い」の3段階で解釈する。
- ・プロフィール全体の形状の特徴をみる。得点が高いことが望ましいわけではない。むしろ、プロフィールに山と谷がはっきりしていることがポイントである。山と谷がはっきりしていることは、興味や志向性が分化していることを意味しており、それだけ職業への準備性ができていると解釈される。
- ・検査の得点が全般的に低い場合、無理にパーセンタイル順位の高い領域をみつけて解釈をしない。むしろ、個々の質問項目に戻り、「やりたい」あるいは「どちらともいえない」という回答がみられた項目に着目したり、「やりたくない」という回答が多くなった理由を考えさせたりする。
- ・この検査の結果をストレートに適職や適性のある職業と結び付けて解釈しない。
- ・結果のフィードバックに際しては、受検者へきちんと情報提供し、受検者が納得できるような 解釈と説明の提供を行う。
- ・結果の解釈を通して、職業情報の探索を促したり、進路選択への関心を高めるように援助をする。

- ・検査結果で選択すべき進路を決定するのではなく、個々の生徒が自分なりに結果について考え、 選択の可能性を広げるようにする。
- ・適性検査の結果や進路希望調査等、他の資料と関連付けて結果を解釈する。この検査は職業興味の特徴を明らかにするが、生徒をよりよく理解するためには、本検査の結果に加えて、能力の側面や本人の希望等、様々な他の特徴についても総合して解釈すべきである。
- ・高校生は、心身ともに発達の途上にあり、職業興味は変化することを念頭に置いて解釈し、指導する。検査の結果は、実施した時を点での興味を切り取って示した結果に過ぎない。特に、高校生は心身ともに大きく変化する時期であり、経験や成長に伴って興味も変化するであろうことを前提として解釈すべきである。

(参考:労働政策研究・研修機構「職業レディネス・テスト[第3版]手引」2006年7月を基に作成)

③ 職業レディネス・テストを活用したキャリア教育の実践

- ・結果の解釈を通して、職業について調べることや職業情報の探索を促したり、進路選択への 関心を高めるように援助をする。
- ・テスト結果から選択すべき進路を決定するのではなく、個々の生徒が自分なりに結果について考え、選択の可能性を広げるように指導する。
- ・適性検査の結果や進路希望調査等、他の資料と関連付けて結果を解釈する。このテストは職業興味の特徴を明らかにするが、生徒をよりよく理解するためには、テストの結果に加えて、能力の側面や本人の希望等、様々な他の特徴についても総合的に勘案して解釈することが求められる。

(参考:労働政策研究・研修機構「職業レディネス・テスト[第3版]手引」2006年7月を基に作成)